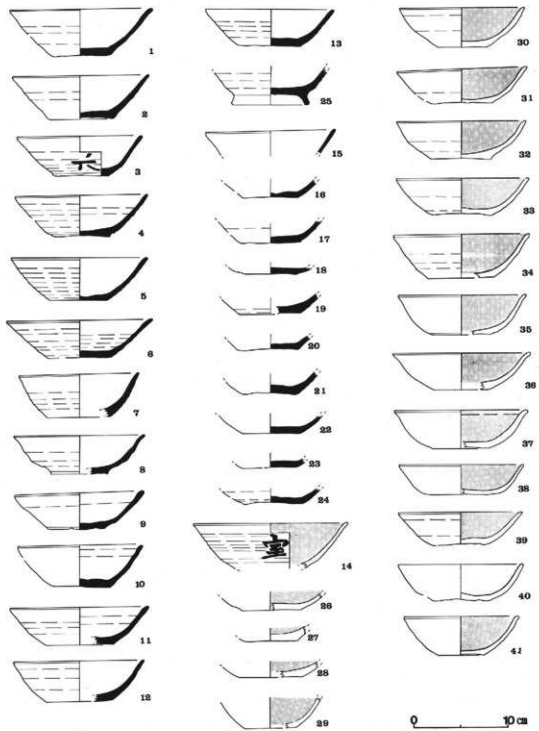




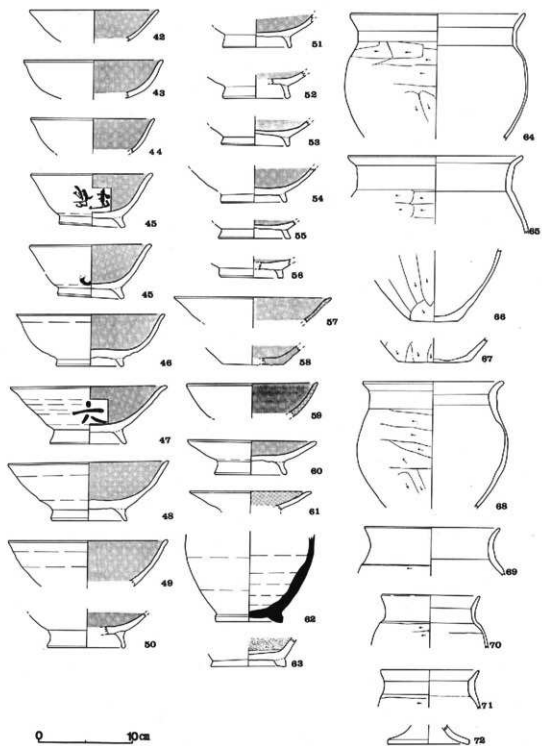
写真218 H6号住居址遺物出土状況（北より）



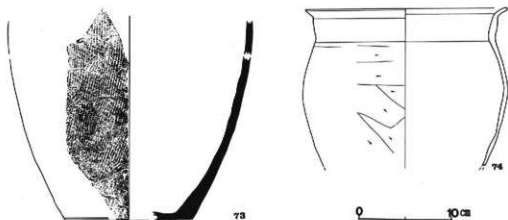
写真219 H6号住居址掘り方（南より）



第93图 H6号住居址出土器物实测图(1)



第94图 H6号住居址出土遗物实测图(2)



第95図 H6号住居址出土遺物実測図(3)

#### 遺物

全点数74個を実測し、土器の総重量10.98Kgと多くの土器が出土している。鉄滓300gも出土している。

土師器は杯・碗・皿・甕・小型甕がある。須恵器は杯・長頸壺・甕がある。灰釉陶器は長頸壺・短頸壺がある。

土師器杯はミガキ黒色処理される。底部は回転糸切りのままのものが多く、ヘラケズリ調整するものも5個体あった。土師器碗形土器も杯同様に内面ミガキ黒色処理される。器形は様々で、大・小、浅い・深いがある。高台の付く皿は全体に内湾気味に開いている。甕形土器は口縁部形が「コ」字形である。

須恵器杯は小さな底部から長い口縁が延び器高の深いものと、短い口縁の浅いものがある。調整は内外面ロクロ調整で底部は回転糸切りである。須恵器甕も図示した四耳壺の他に、大甕の肩に付く把手や広口の甕の破片がある。

灰釉陶器は長頸壺の底部や短頸壺の胴部がある。

黒書土器が多く須恵器杯「六」、土師器杯に「空」、土師器碗に「刑部」(欠損して読めないが反対側に他の墨書あり)・「六」がある。「刑部」は『和名抄』書かれた佐久八郷の一つであり、この地が「刑部」郷と関連する有力な根拠となる史料である。(1987 井出正義『岸野村誌』) 時期は9世紀中頃に位置づけられよう。

## 7) H7号住居址

### 遺構

I地区南側Kえ-4グリットにある。東壁をM4号溝状遺構が壊している。長軸を東西に持ち、東西4.08m 南北3.72mを測る。壁残高は24cmである。主軸方位はN-12°-Wを測る。

床面は締まる。掘り方はない。柱穴は東壁中央と住居址中央、南壁下中央にある。

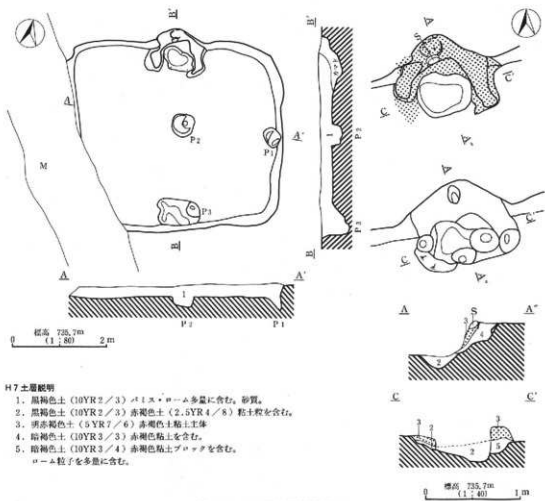
東西に主柱穴を2本持つパターンで西は壊されたものと思う。

覆土は黒褐色土である。

カマドは北壁中央にあり、袖と煙道が残る。土師器武藏甕を逆位にして煙道としている。長さ88cm、幅110cmで明赤褐色粘土を使用して構築している。



写真220 H7号住居址（北より）



H7土層説明

1. 黒褐色土 (10YR 2/3) パリス・ロー多量に含む。砂質。
2. 黒褐色土 (10YR 2/3) 赤褐色土 (2.5YR 4/8) 粘土粒を含む。
3. 赤褐色土 (5YR 7/6) 赤褐色土粘土主体
4. 暗褐色土 (10YR 3/3) 赤褐色粘土を含む。
5. 暗褐色土 (10YR 3/4) 赤褐色粘土ブロックを含む。  
ロー多量を含む。

第96図 H7号住居址実測図



写真221 H7号住居址カマド(南より)



写真222 H7号住居址カマド(東より)



写真223 H7号住居址カマド（北より）



写真224 H7号住居址カマド（南より）

遺物

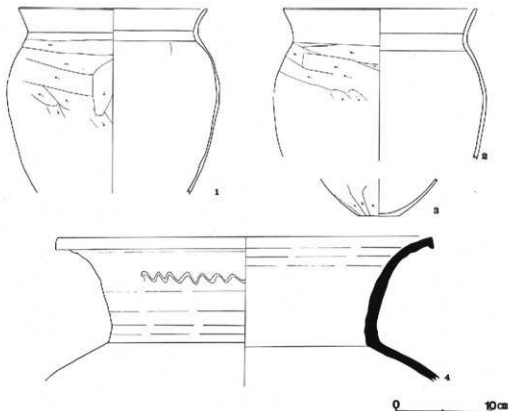
土器2.17Kgと刀子が出土している。

土器は土師器杯・甕・台付き甕、須恵器は杯・杯蓋・甕がある。

土師器杯は内面ミガキ黒色処理される。武蔵甕は口縁部形が「く」字形を呈する。

須恵器甕は大甕で口縁が大きく外反するものである。

これらより時期は9世紀前半に位置づけられる。



第97図 H7号住居址出土遺物実測図

## 8) H8号住居址

### 遺構

南端Kウー7グリットにあり、M4号溝状遺構に北西からカマドの一部と南壁中央まで壊され、東西方向の暗渠にも壊されている。南東でH9号住居址を切っている。東西に長軸を持ち、4.68m×3.8mを測る。壁残高が20cmを測る。主軸はN-15°-Wを測る。

床面は締まる。炭化材が床面に残っていた。掘り方は掘り込みがなく変化がない。

柱穴は支柱穴4本が検出され、北側のビットが北壁に接するものである。2.4×2.8mに柱が配される。ビットは径24~40cm深さ62~64cmを測る。

土坑は一辺80cmの隅丸長方形で深さは18cmを測る。

覆土は黒褐色土である。

カマドはM4に壊され火床部が残っているだけだった。

### 遺物

土器が5.79Kg出土している。

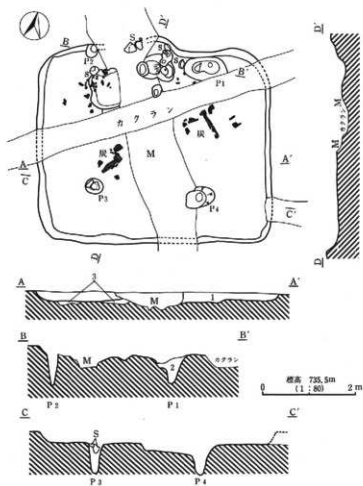
土器器は杯・碗・甕・小型甕があり、須恵器は杯・杯蓋・長頸壺・大甕・四耳壺がある。

土器器杯・碗は内面ミガキ黒色処理される。土器器甕は3種あって、武蔵甕が多いが、12の白色で口縁の外反するもの、14・15・16のロクロ甕がある。



写真225 H8号住居址(南より)





H8土層説明

1. 黒褐色土層 (10YR 2/2)  
ローム粒を多く含む。
2. 暗褐色土層 (10YR 3/4)  
ローム粒・ロームブロックを  
多量に含む。
3. 黒褐色土層 (10YR 2/2)  
パリス・ローム粒を含む。  
ローム 2cm程度上面に貼る。

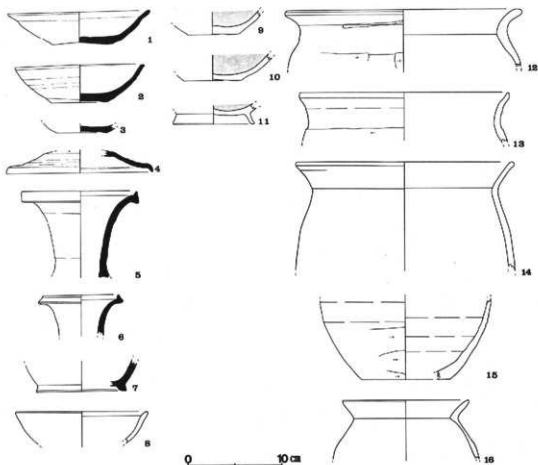
第98図 H8号住居址実測図



写真226 H8号住居址炭化材(西より)



写真227 H8号住居址P3(南より)



第99図 H8号住居址出土遺物実測図

須恵器杯はロクロ調整の底部回転糸切りである。

これらより9世紀代後半であろう。



写真228 H8号住居址(北より)



写真229 H8号住居址(南より)

## 9) H9号住居址

### 遺構

南端にあり、Kラ-7グリットにある。北西上面をH8号住居址に切られる。東壁側は小  
河川により一部壊されている。壁残高がほとんどないので残りの状態は良くない。

生活面は削平され、明確に確認できなかった。床下の掘り込みがないタタキの床である。

柱穴は6個検出され、P1からP4が主柱穴である。ビットの径40~80cm深さ60~80cmを測る。

南壁下に出入口のビット、住居址の中央にもある。

土坑は南西隅にD1があり、長径108cm短径88cm深さ33cmを測る。

カマドは北壁中央にあり、火床部が残り、長さ106cm幅116cmを測る。

### 遺物

土器7.42Kgと鉄製の先端が尖がり断面四角形の釘？がある。

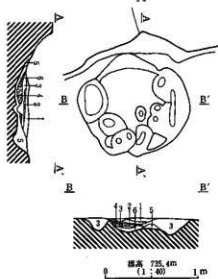
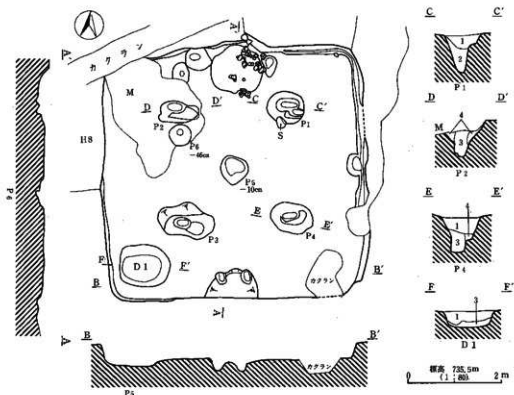
土師器杯は内面ミガキ黒色処理され、底部回転糸切りのままのものど底部周辺と口縁下部のみ  
ヘラケズリするものがある。高台の付く皿は内湾気味の口縁である。甕は武蔵甕で口縁部形  
「コ」字を呈す。

須恵器杯はロクロ調整のままである。須恵器で器高が深く、底径の小さい碗形器形がある。

時期は9世紀後半に位置付けられよう。



写真230 H9号住居址(南より)



#### H9土層説明

1. 黒褐色土層 (10YR 2/2) ーム・パミス粒含む。
2. 暗褐色土層 (10YR 3/4) ーム主体。
3. 黒褐色土層 (10YR 3/2) ーム多く含む。
4. 黄褐色土層 (10YR 5/6) ーム主体に黒色土ブロック含む。

#### H9カマド土層説明

1. 黒色層 (5YR 7/1) 炭化物層。
2. 褐灰色層 (5YR 4/1) 灰層。
3. 暗赤褐色土層 (5YR 3/3) 焼土粒子を含む粘性のつよい土。
4. 赤褐色土層 (5YR 4/6) 焼土層。
5. 褐色土層 (7.5YR 3/4) ーム粒子に黒色土含む。

第100図 H9号住居址実測図



写真231 H9号住居址カマド（西より）



写真232 H9号住居址カマド掘り方（南より）

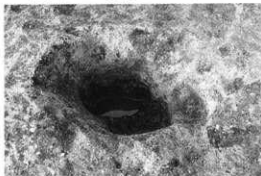


写真233 H9号住居址P1（南より）

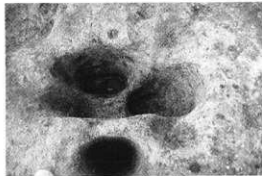
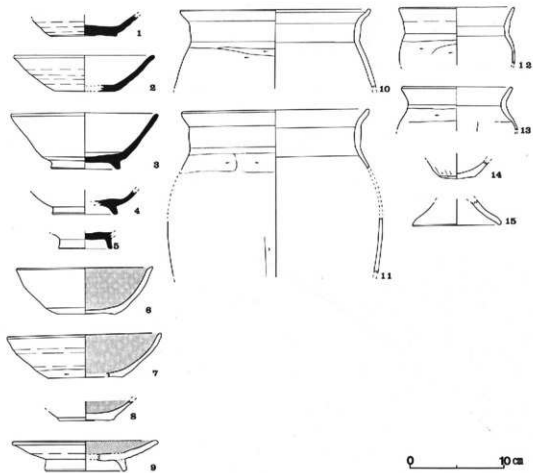


写真234 H9号住居址P2（南より）



写真235 H8号住居址（右下）・H9号住居址（左上）（北より）



第101図 H9号住居址出土遺物実測図



写真236 H9号住居址掘り方(南より)

## 10) H10号住居址

### 遺構

I区3次調査地点で検出された住居址でHあ-9グリットにある。西壁中頃から南壁西側にかけて暗渠により覆われる。規模は長軸を東西に持ち、 $3.0 \times 2.88\text{m}$ を測り、方形を呈す。カマドは西壁にある。

床面は締まっていた。床下に掘り方はなくタタキの床である。床下からも南北に柱穴が検出された。

生活面では柱穴が南北壁に接して1個ずつある。

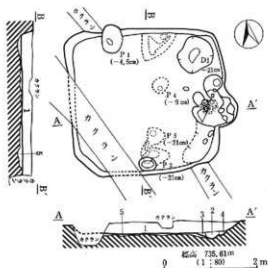
土坑は北東隅にあり、不整形を呈し径80cm深さ21cmを測る。



写真237 H10号住居址（南より）



写真238 H10号住居址掘り方（南より）



第102図 H10号住居址実測図

H10土層説明

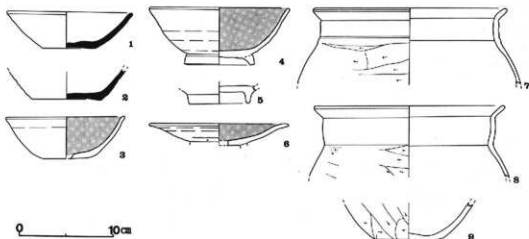
1. 黒褐色土層 (10YR3/2) 1cm大のベイスを含む。ローム粒子を少量含む。
2. 黒褐色土層 (5YR3/3) 鋭土粒子含む。焼け込んでいる。
3. 黒褐色土層 (10YR3/1) 鋭土・炭化物粒子を少量含む。
4. にぶい黄褐色土層 (10YR4/3) ローム主体。鋭土粒子含む。
5. 黒褐色土層 (10YR3/2) ベイスを少量含む。

遺物

土器1.5Kgが出土している。土師器は杯・碗・高台の付く皿・壺・小型壺・台付き壺がある。須恵器は杯がある。

土師器杯・碗・皿は内面ミガキ黒色処理され、底部回転米切りである。壺は武蔵壺で口縁部形態「コ」字形である。須恵器杯は小さい底部から口縁部が外側に開く。

これらより10世紀前半に位置づけられよう。



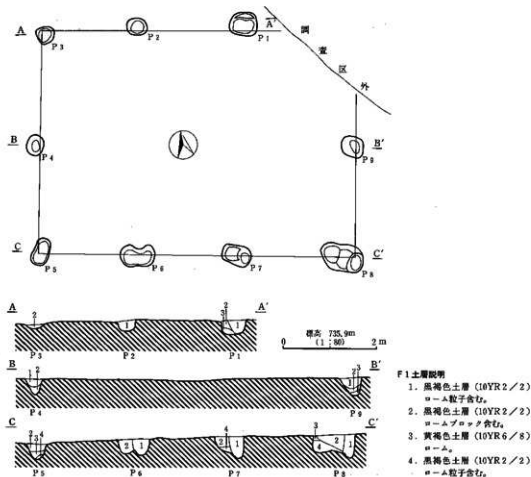
第103図 H10号住居址出土遺物実測図



## 2、掘立柱建物址

### 1) F1号掘立柱建物址

I地区北端Dけ-2グリットにある。桁行き600cm梁行き440cmを測り、3間×2間の東西棟である。北東のピットが区域外で検出できないが10本柱の側柱式の掘立柱建物址である。主軸方位はN-10°-Wである。柱穴は径36~44cm、深さ12~48cmを測る。



第104図 F1号掘立柱建物址実測図



写真239 掘立柱建物址群（北より）

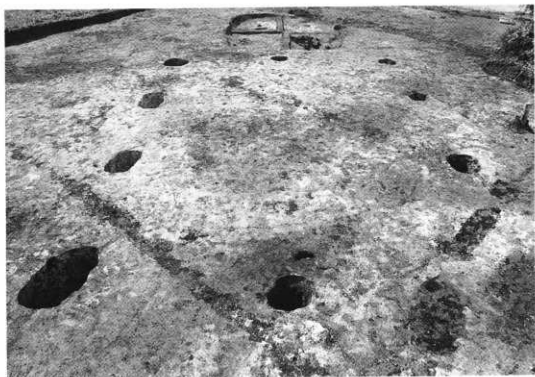
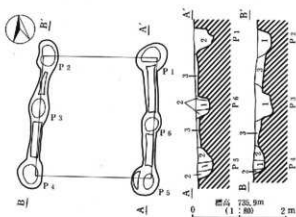


写真240 F1号掘立柱建物址（東より）

## 2) F2 掘立柱建物址



I地区北側Dく-4グリッドにある。溝持ちの掘立柱建物址である。桁行き260cm、梁行き240cm、2間×1間の南北棟である。主軸方位はN-9°-Wである。6本柱で、柱穴は径52~80cm深さ24~40cmを測る。側柱式である。

第105図 F2号掘立柱建物址実測図

### F2土層説明

1. 黒褐色土層 (10YR 2/2)
2. 黒褐色土層 (10YR 3/2) ローム粒・ロームブロック多く含む。
3. 黒褐色土層 (10YR 3/2) rome粒子多く含む。

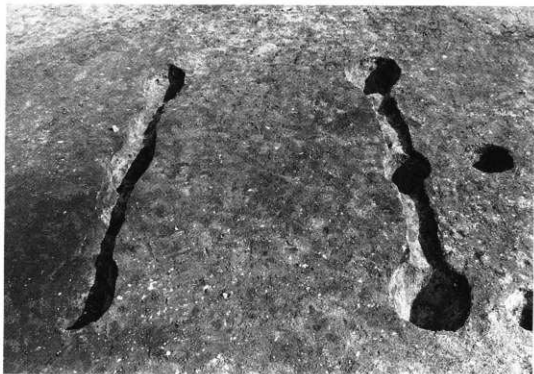
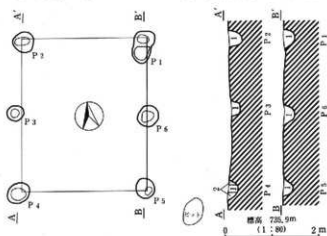


写真241 F2号掘立柱建物址 (南より)

### 3) F3号掘立柱建物址

I地区北側、Dき-5グリットにある。桁行き320cm梁行き260cmの2間×1間の南北棟である。



主軸方位はN-5'-Wを指す。6本柱で柱穴は径30~40cm 深さ18~28cmを測る。側柱式である。

第106図 F3号掘立柱建物址実測図

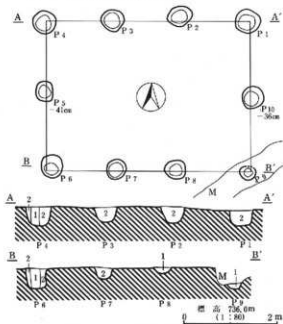
#### F3土層説明

1. 黒褐色土層 (10YR 2/2) コーム・パリスを含む。
2. 黒褐色土層 (10YR 3/2) コーム粒・コームブロックを多量に含む。



写真242 F3号掘立柱建物址 (南より)

#### 4) F4号掘立柱建物址



第107図 F4号掘立柱建物址実測図

I地区北側南Dか-6グリットにある。桁行き420cm、梁行き320cmの3間×2間の掘立柱建物址である。東西棟で側柱式である。主軸はN-2'-Wである。10本柱で柱穴は径36~52cm、深さはP7の24cmとはP8の12cmを除いて、32~44cmを測る。

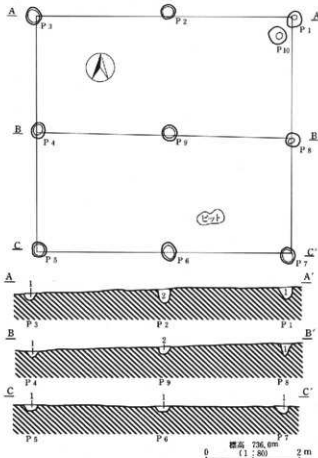
#### F4土層説明

1. 黒褐色土層 (10YR2/2) ローム粒含む。
2. 黒褐色土層 (10YR2/2) ローム粒・ロームブロック含む。



写真243 F4号掘立柱建物址(東より)

### 5) F5 掘立柱建物址



I地区北側Dく-7グリットにある。桁行き540cm梁行き492cmの2間×2間の東西棟で、総柱の掘立柱建物址である。主軸方位はN-3°-Wである。柱は9本で柱穴は径28~32cm、深さ12~28cmを測る。

#### F5土層説明

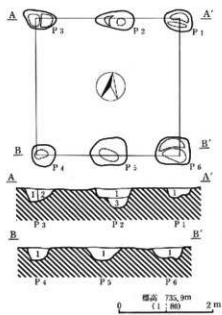
1. 風褐色土 (10YR2/2) ローム腔を含む。
2. 黒褐色土 (10YR3/2) パリス・ロームを多量に含む。

第108図 F5号掘立柱建物址実測図



写真244 F5号掘立柱建物址(東より)

## 6) F6 掘立柱建物址



第109図 F6号掘立柱建物址実測図

I地区中央のGこー4グリットにある。桁行き280cm  
梁行き280cm 2間×1間の東西棟である。主軸方位は  
N-8° -Wである。6本柱の側柱式で、柱穴径56  
~80cm、深さ20~40cmを測る。

### F6土層説明

1. 黒褐色土層 (10YR 3/2) バイス・ローム含む。
2. 黒褐色土層 (10YR 3/2) バイス・ローム粒・ロームブロック  
多く含む。
3. 褐色土層 (10YR 4/4) ロームブロックを多量に含む。

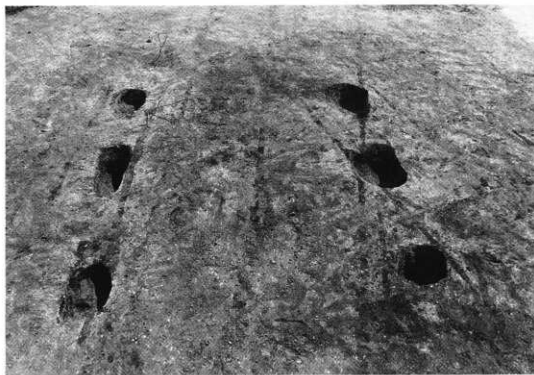
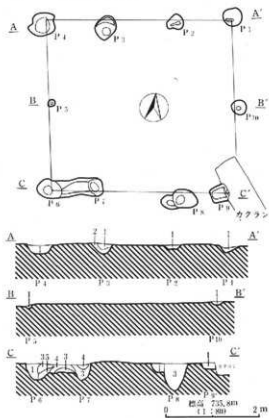


写真245 F6号掘立柱建物址 (東より)

## 7) F7 掘立柱建物址



第110図 F7号掘立柱建物址実測図

1地区中央Gこ-4グリットにある。主軸方位N-5°-Wを指す、東西棟である。桁行き400cm梁行き360cmの3間×2間の掘立柱建物址である。P6とP7は溝でつながる溝持ちである。10本柱の側柱式である。ピットはP5とP10が径16cm深さ8cmと径28cm深さ8cmと径が小さく、他は径36~52cm、深さ8~56cmである。

### F7土層説明

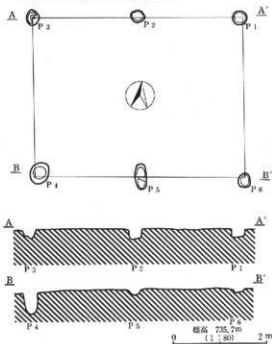
1. 黒褐色土層 (10YR 2/2) ローム粒を多く含む。
2. 褐色土層 (10YR 4/6) ローム粒を極めて多く含む。
3. 黒褐色土層 (10YR 2/3) パイク・ローム多く含む。
4. 黄褐色土層 (10YR 5/8) ローム。
5. 暗褐色土層 (10YR 3/4) ロームを多量に含む。



写真246 F7号掘立柱建物址(南より)



### 8) F 8号掘立柱建物址



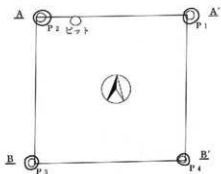
1地区南側中央Gこ-7グリットにある。桁行き440cm梁行き336cm、2間×1間の東西棟である。主軸方位はN-5°-Wである。6本柱で側柱式である。ピットは径28~36cm深さ12~40cmを測る。

第111図 F 8号掘立柱建物址実測図

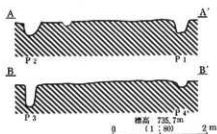


写真247 F 8号掘立柱建物址(西より)

9) F 9号掘立柱建物址



I地区南側中央Gこー8グリットにある。南北320cm  
東西300cmの1間×1間の掘立柱建物址である。主軸  
方位はN-3°-Wである。4本の柱の径は24-36  
cm、深さ12-44cmを測る。



第112図 F 9号掘立柱建物址実測図

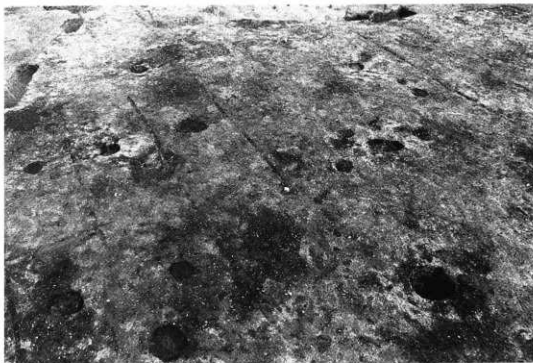
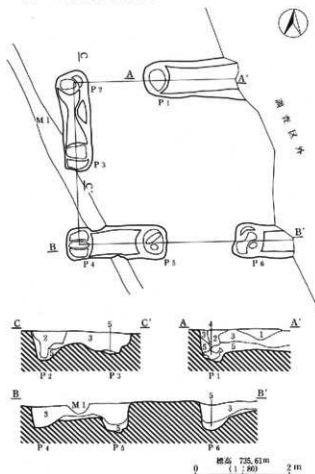


写真248 F 9号掘立柱建物址（西より）

## 10) F10掘立柱建物址



第113図 F10号掘立柱建物址実測図

I地区3次調査で検出された。I地区中央のHい-8グリットにある。東側は調査次が異なったため、工事に壊されてない。推定で桁行き東西520cm梁行き340cmを測る。3間×2間の溝持ちの掘立柱建物址である。溝幅は260~68cm長さ208cm、柱穴は40~64cm深さ44~64cmを測る。

### F10土層説明

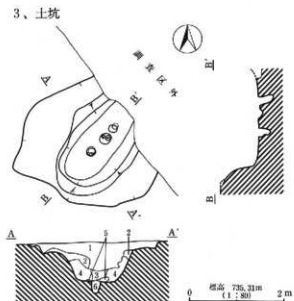
- 1層 黒褐色土(7.5YR2/2) 自然堆積。  
パリスを多量に含む。
- 2層 褐色土(7.5YR4/3) 柱痕抜き取り  
跡の堆積。パリスを多量に含む。
- 3層 黒褐色土・明黄褐色土(7.5YR2/2・  
10YR6/8) 人為的埋土。黒褐色土と  
明黄褐色土を主とする埋土。
- 4層 黒褐色土(7.5YR3/2)
- 5層 褐色土(7.5YR6/6) 人為的埋土。黒  
褐色土(7.5YR3/2)を小ブロック状  
に含む。



写真249 F10号掘立柱建物址(西より)



写真250 F10号掘立柱址P4・P5(西より)



第114図 D1号陥し穴実測図

### D1号陥し穴

3次調査区Hラ-7グリットにある。  
東側は調査時が異なったため、工事で壊されてない。検出面で幅300cm中段で152cmを測る。深さは80cmあり、底面に3個の杭痕があった。径は14~24cmを測る。

### D1土層説明

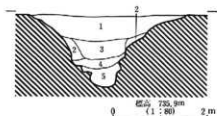
- 1層 黒色土 (7.5YR 3/2) 粒子細かく粘性弱。直径0.5cm~1cm大のベリスを多量含む。
- 2層 黒褐色土 (10YR 3/2) 粒子細かく粘性弱。直径0.5cm~2cm大のベリスを多量含む。
- 3層 黒褐色土 (10YR 2/3) 粒子細かく粘性弱。直径0.5cm~2cm大のベリスを多量含む。
- 4層 黄褐色土 (10YR 5/6) 粒子細かく粘性弱。直径0.5cm~1cm大のベリスを少量含む。
- 5層 黒褐色土 (10YR 2/3) 粒子細かく粘性弱。直径0.5cm大のベリスを少量含む。
- 6層 黒褐色土 (10YR 2/2) 粒子細かく粘性弱。



写真251 D1号陥し穴(北東より)

#### 4、溝状遺構

**M1号溝状遺構** I地区北側の南、Hこー1からDえー7にかけてあり、西に低くなっている。幅320cm深さ145cmを測る。H3号住居址を壊している。



第115図 M1号溝状遺構実測図

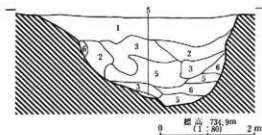


写真252 M1号溝状遺構土層断面（北より）

#### M1土層説明

1. 黒褐色土層 (10YR2/2) パリスを多く含む。ローム粒含む。
2. 褐色土層 (10YR4/4) ローム粒子・ロームブロック多量含む。
3. 黒褐色土層 (10YR2/2) ローム粒・砂を多量に含む。

4. 黒褐色土層 (10YR3/2) 砂・ロームブロックを含む。
5. 灰白色土層 (10YR7/1) 砂層。



第116図 M2号溝状遺構土層断面図



写真253 M2号溝状遺構土層断面（西より）

#### M2土層説明

1. 黒褐色土層 (10YR2/2) パリスを多く含む。
2. 黒褐色土層 (10YR3/2) 砂を多く含む。パリス・ローム粒含む。
3. にぶい黄褐色 (10YR6/4) シルト層。

4. 明黄褐色土層 (10YR6/8) ローム層。
5. 褐色土層 (10YR6/1) 砂礫層。
6. 灰白色土層 (10YR7/1) 砂層。

**M2号溝状遺構** I地区北西Eうー4グリット～Eうー4グリットに南流する。VI地区の河川へ続くものと思う。幅400cm深さ184cmを測る。

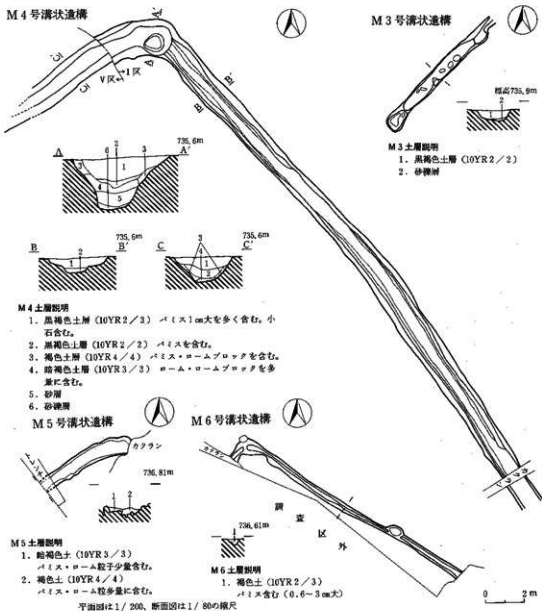
**M3号溝状遺構** I地区北側南Dくー9～Dえー6グリットあり、西に低くなっている。流れ

はじめは上久保田向遺跡Ⅳ地区の南西の端からである。幅70cm深さ20cmを測る。

**M4号溝状遺構** I地区南西のKえー7~Kけー1グリットが南東から南西にかけて流れ、直角に曲がって南西に行く溝である。幅120cm前後、深さは28~52cmを測る。

**M5号溝状遺構** I地区三次調査区の北端Hきー4グリットにある。幅100cm深さ40cmを測る。

**M6号溝状遺構** I地区三次調査区の北端Hうー8グリットにある。幅50cm深さ12cmを測る。



第117図 M3号~M6号溝状遺構実測図



写真254 M3号溝状遺構（北西より）



写真255 M4号溝状遺構（北より）



写真256 M5号溝状遺構（東より）

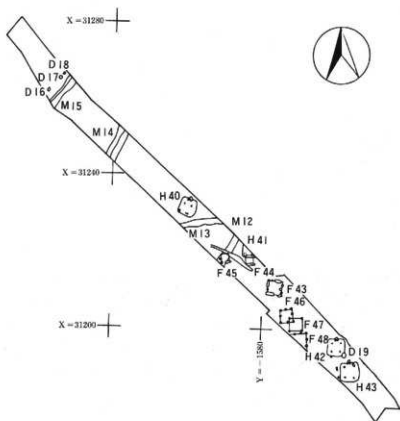


写真257 M6号溝状遺構（東より）



写真258 上久保田向遺跡1区3次調査（北西より）

# 上久保田向遺跡Ⅱ地区



第118図 上久保田向遺跡Ⅱ地区



## 第1節 上久保田向遺跡II地区

### 1、堅穴住居址

#### 1) H40号住居址

##### 遺構

II地区2次調査。II地区中央にあたるTあ-3グリットにある。カマドの北側を浅い溝が上面を壊している。残存状態が良く、カマドの煙道部がそのまま残っていた。

規模は420cm(南北)×412cmの方形を呈する住居址である。主軸方位はN-20°-Eを指す。

床面は2面の締まった床が確認できた。床は全体に良く締まり、生活面の検出は容易であった。

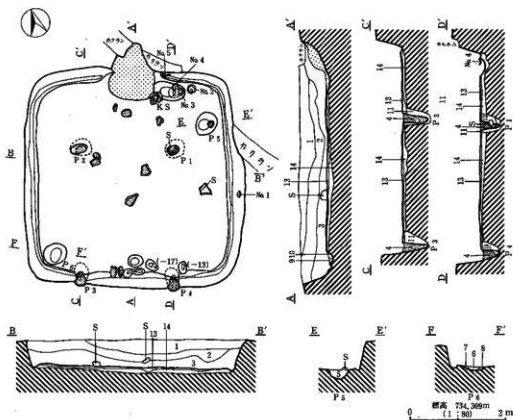
生活面で支柱穴の長径28cm深さ60~40cmを測る柱痕と南壁下の出入口施設のピット、北東の長径53cm深さ20cmの灰落としピット(P5)、南西にピットを検出した。南西の径48cm深さ8cmの浅いピットには焼土があった。周溝が壁下を全周している。

覆土は黒褐色土で砂礫質である。壁残高30cm、掘り方は床下へ10cm下がる。

カマドは北壁中央にあり、長さ118cm幅98cmを測る。煙道が残り武蔵甕を逆に重ねて煙道として利用し、黒褐色粘土で構築している。多くの軽石を芯材として組み粘土を充填する構造である。カマドの東隣には長径70cm深さ12cmピットがある。



写真259 H40号住居址(北より)



第119図 H40号住居址実測図

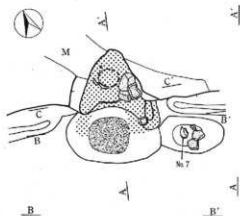
H40土層説明

1. 黒褐色土 (10YR 2/3) 砂利層。3 or 大塊をも含む。
2. 黒褐色土 (10YR 2/2) 1層に黒色土ブロック多く含む。黒味あり。
3. 黒褐色土 (10YR 2/3) 1層より礫が少ない。やや明るい。
4. 黒褐色土 (10YR 2/3) 柱痕。僅かにパイス含む。しまりなし。
5. 黒褐色土 (10YR 3/2) フコフカ。灰・炭化物含む。
6. 暗褐色土 (7.5YR 3/3) 焼土・粒子多く含む。
7. 黒褐色土 (10YR 2/3) 焼土・パイス含む。
8. 黒褐色土 (10YR 2/2) パイス含む。
9. 黒褐色土 (10YR 2/2)
10. 褐色土 (10YR 4/4) パイス粒含む。
11. 暗褐色土 (10YR 3/3) ロームと黒色土混層。
12. 黒褐色土 (10YR 2/3) フコフカ・ローム粒子混じる。
13. 黒褐色土 (10YR 2/2) 貼り床。二面の床面あり。暗褐色の砂礫と黄褐色ローム混層。
14. 黒褐色土 (10YR 3/2) 黒色土にローム粒子含む。

遺物

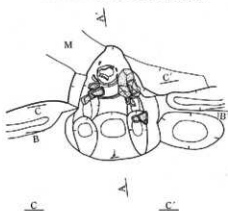
土器が出土する。土師器は杯・碗・甕がある。須恵器は杯・四耳壺の口縁がある。

土師器杯は内面ミガキ黒色処理され、10は外面にもミガキを施し、11・12は外面口縁下部と底部を回転ヘラケズリしている。碗も内面黒色処理される。墨書「米」が書かれている。この土師器の杯・碗は調整が丁寧で器形も整い焼成も良い。土師器甕はいずれも武蔵甕である。口縁部形



カマドH40土層説明

1. にぶい赤褐色(5YR5/4) 灰含む。
2. 明赤褐色(5YR5/8) 焼けた土。
3. 黄褐色土(5YR2/2) 焼土含む。黒味あり。
4. 黒褐色土(7.5YR3/2) 粘土主体。
5. 暗褐色土(7.5YR3/4) 焼土を多く含む。
6. 暗褐色土(7.5YR3/3) 焼土粒子含む。
7. 黒褐色土(7.5YR2/2) 炭化物・焼土をいくらか含む。小石含む。



標高 734.209m  
(1:40) 1m

第120図 H40号住居址カマド実測図



写真260 H40号住居址カマド(南より)



写真261 H40号住居址カマド掘り方



写真262 H40号住居址カマド煙道（南より）

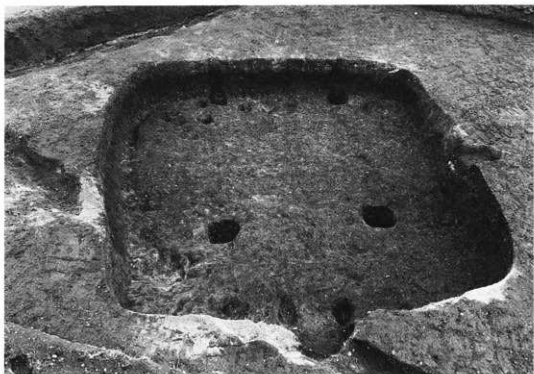
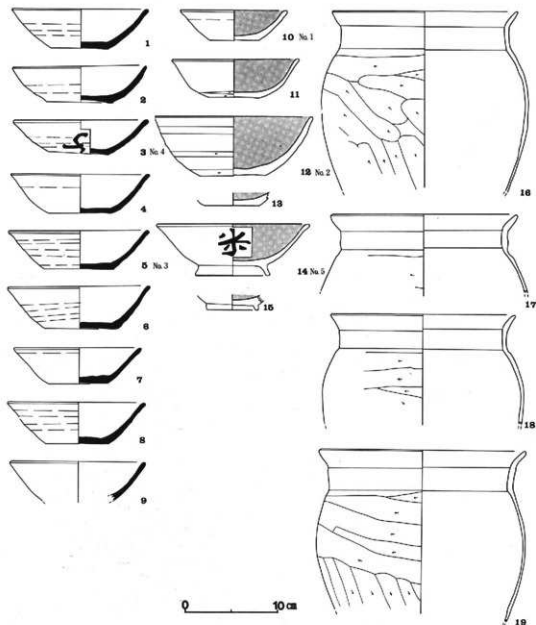


写真263 H40号住居址掘り方（北より）

態は「コ」字形である。16・18・19が煙道に使用されたものである。

須恵器は杯形土器が9点実測できた。口クロ調整で底部回転糸切りされる。器形は小さい底部から内湾して開くものと、広めの底部から直線的に開くものがある。墨書がなされ判読不明である。1の外面にも墨書の痕跡があるが、実測できなかった。いずれも軟質である。

時期は9世紀後半の位置づけができよう。



第121図 H40号住居址出土遺物実測図

## 2) H41号住居址

### 遺構

II地区中央H40の南東、Sき-5グリットにある。北東の約半城が調査区域外であるため全容はつかめなかった。南壁でF44号掘立柱建物址を切っている。

規模は東西300cm南北280cmで東西に長軸をもつ。主軸方位はN-0°である。

床面は黒色土とロームブロックの貼り床で良く締まっていた。床下は4cmほど下がるが周辺部は10cmほど掘り込まれている。

柱穴は主柱穴が検出されず、出入口施設のパットがある。

土坑は北西にあり、長径60cmの楕円形を呈し、深さ12cmである。

覆土は2層堆積し、黒褐色土である。

カマドは検出されていない。

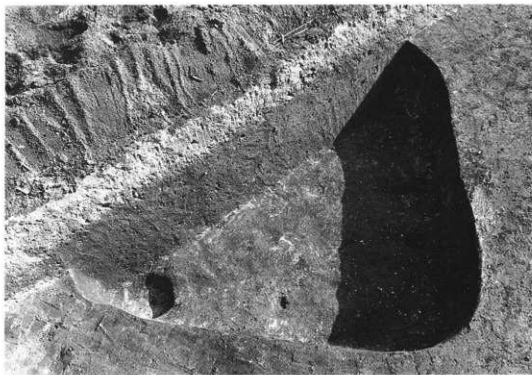
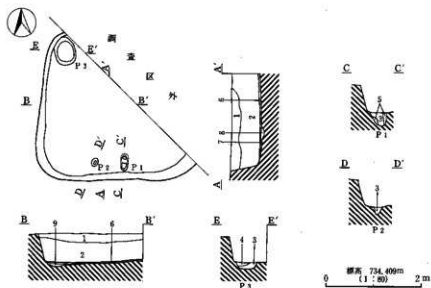


写真264 H41号住居址（西より）



第122図 H41号住居址実測図

H41土層説明

1. 黒褐色土 (10YR 2/3) 5mm次のベミスを含み細かいロームブロック少々含む。
2. 黒褐色土 (10YR 2/3) 1層より多くのロームブロック1cm次を多く含む。時々黒色土ブロックを含む。
3. 黒褐色土 (10YR 2/3) しまりなし。細かいローム。
4. 黒褐色土 (10YR 2/3) ロームブロック層。
5. 褐色土 (10YR 4/6)
6. 黒褐色土 (10YR 2/2) 黒色障目とロームブロック貼り床。堅版。
7. 黒褐色土 (10YR 2/3) 黒色障目とロームブロック貼り床。堅版。
8. 黄褐色土 (10YR 5/8) ローム。
9. 暗褐色土 (10YR 3/4) 黄褐色ロームブロック多量を含む。

遺物

土器がわずかに100g出土し、実測個体はない。

土師器は武蔵甕の破片、須恵器は杯の破片がある。杯は口口調整、底部回転切りされるものである。

時期は9世紀代と見て良いと思われる。

### 3) H42号住居址

#### 遺構

II地区南端にあり、II地区一次調査区である。暗渠により一部壊される。

規模は東西460cm南北392cmを測り、東西に長軸を持ち長方形を呈す。主軸方位はN-0°で北を指す。壁残高は20cmを測る。

周溝が北壁～南壁中央まであった。床面は締まっていた。掘り方は周辺部を掘り下げ、中央部を残すものである。

柱穴は4本の主柱穴が検出され、260cm(東西)×240cmに配される。長径28~60cm深さ56~64



写真265 H42号住居址 P1 (南より)

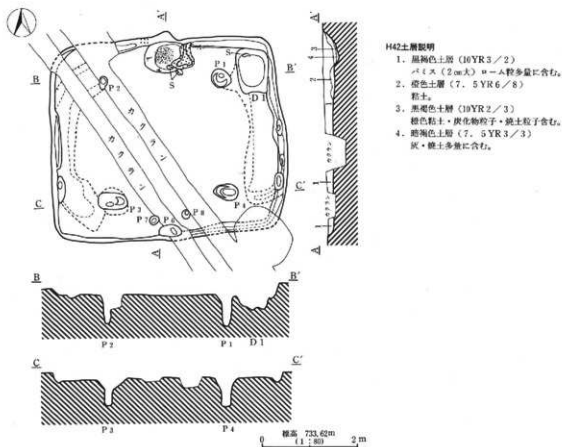


写真266 H42号住居址 P6・P7 (南より)



写真267 H42号住居址 (南より)





第123図 H42号住居址実測図

cmを測る。

P6～P8は出入口施設のピットである。

土坑は北東隅にあり、長辺92cm短辺8cmの隅丸長方形を呈し、深さ24cmを測る。

カマドは北壁中央にあり、長さ64cm幅100cmを測る。火床部と袖の一部が残っていた。

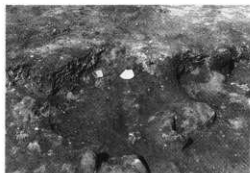


写真268 H42号住居址カマド (南より)

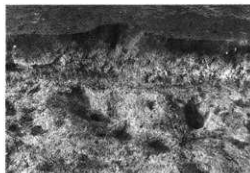


写真269 H42号住居址カマド掘り方 (南)

### 遺物

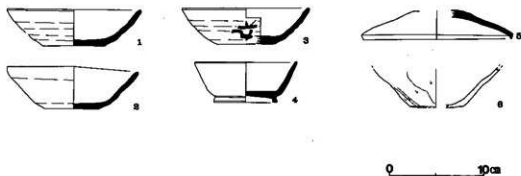
土器950g と鉄製の刀子が出土している。

土器は土師器杯・甕、須恵器杯・高台付き杯・杯蓋・甕がある。

土師器杯は内面ミガキ黒色処理される破片が5個あるだけである。甕は武蔵甕である。

須恵器杯は底部回転糸切りのもので、3は判読不明だが、墨書がなされている。杯蓋は扁平で短く口縁が折れる。

時期は9世紀代が相当するものと思う。



第124図 H42号住居址出土遺物実測図

#### 4) H43号住居址

##### 遺構

II地区1次調査地点である。II地区南端にある。暗渠により、一部壊される。

規模は南北500cm東西492cmの南北に長軸をもつ方形の住居址である。主軸方位は北を指す。

床面は締まっていた。床下は西壁下が掘り込まれ貼り床されている。

周溝が壁下を全周している。

柱穴は、支柱穴4本と南壁下の出入り口施設のビットと、中央の床面にもある。P1～P4は長径36～52cmの長楕円の柱痕をもち、深さ40～48cmを測る。ビットの径は40～70cmを測る。

土炕はカマドの東にあり、長径92cm深さ20cmを測る。

カマドは北壁中央にあり、長さ92cm、幅112cmを測る。火床部とカマドに使用した石が残っていた。

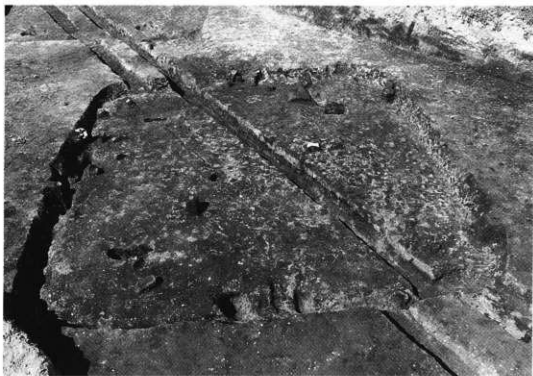
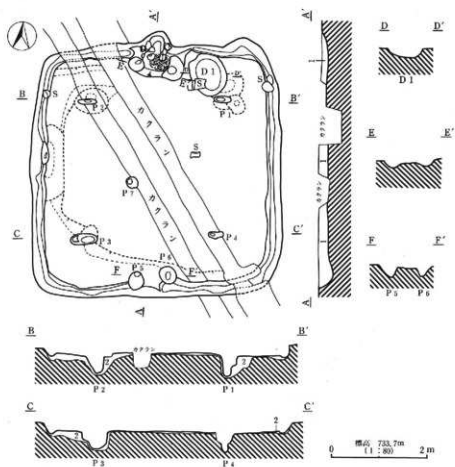


写真270 H43号住居址（南より）



第125図 H43号住居址実測図

H43土層説明

1. 黒褐色土層 (10YR 3/2) バイス・ローム粒多量に含む。
2. 掘り方



写真271 H43号住居址カマド (南より)



写真272 H43号住居址カマド掘り方 (南)

遺物

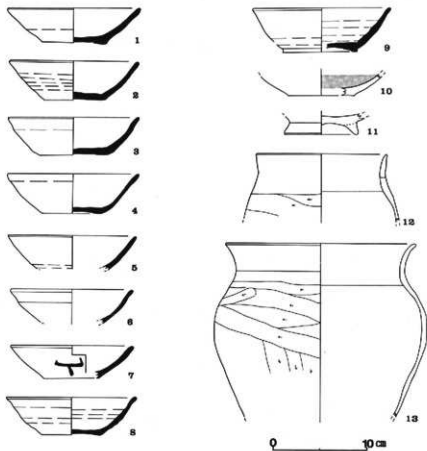
土器と刀子2本が出土している。

土器は土師器杯・碗・甕・小型甕がある。須恵器は杯・高台付き杯がある。

土師器杯はミガキ内面黒色処理され、底部は回転糸切り後ヘラケズリされるものである。土師器甕は武藏甕で口縁部形態が「く」の字形である。

須恵器杯はロクロ調整のまま底部回転糸切りされる。7は判断不明だが墨書される。

時期は9世紀前半に位置づけられよう。



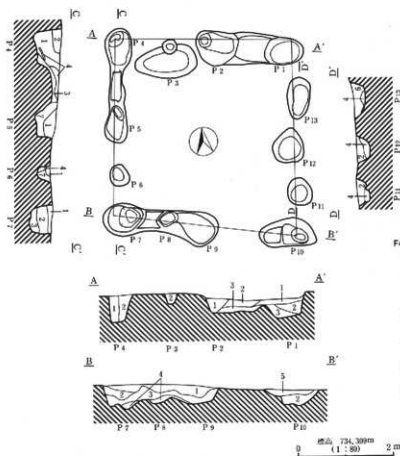
第126図 H43号住居址出土遺物実測図

## 2、掘立柱建物址

### 1) F43号掘立柱建物址

II地区2次調査地点の南端にあり、Sネー7グリットにある。東西372cm南北400cmで2間×3間の南北棟の掘立柱建物址である。砂質で遺構の検出が難しく、そのためやや不揃いな掘立柱

建物址である。3カ所で柱穴が連結する溝持ちである。ピットの計測値はさまざまである。主軸方位はN-5°-Eを指す。



#### F43土層説明

1. 黒褐色土層 (10YR2/3)  
砂利層
2. 黒褐色土層 (10YR2/2)  
ロームブロック・黒色土ブロック・バミス粒含む
3. 褐色土層 (10YR2/1)  
ロームブロックとの混合層
4. 褐色土層 (10YR4/4)  
ロームに黒色土含む
5. 褐色土層 (10YR4/6)  
ローム主体
6. 暗褐色土層 (10YR3/4)  
ローム・バミス含む

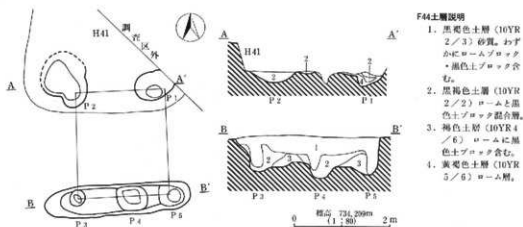
第127図 F43号掘立柱建物址実測図



写真273 F43号掘立柱建物址(北より)

## 2) F44号掘立柱建物址

II地区中央南のSカー6グリットにある。北側の柱穴はH41号住居址に切られて、下面だけがわずかに残っている。東西200南北220cm、2間×1間の掘立柱建物址である。6本柱の3本が東南に連続する溝持ちである。



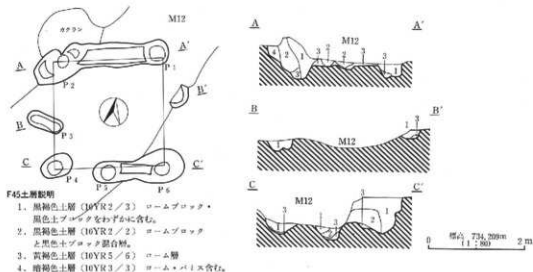
第128図 F44号掘立柱建物址実測図



写真274 F44号掘立柱建物址 (北より)

### 3) F45号掘立柱建物址

II地区二次調査区にあり、Sく-6グリットにある。M12号溝状遺構に切られている。東西200cm南北240cmの2間×2間の側柱式の掘立柱建物址である。主軸方位はN-10°-Wを指す。柱穴は長径で40~68cm、深さ64~92cmを測る。P1・P2、P5・P6は溝持ちである。



第129図 F45号掘立柱建物址実測図



写真275 F45号掘立柱建物址(南より)